解説：

a もやもや病はウイリス動脈輪周囲の血管の両側性狭窄あるいは閉塞とそれに伴う顕著な側副血行路を特徴とする慢性進行性の脳血管疾患で，患者は東アジアに多く，10 歳と 40 歳にピークを持つ二峰性となる．小児期は虚血性変化で発症することが多く，成人期は出血性変化で発症することが多い．*RNF213* 遺伝子の異常が関与している．診断は内頸動脈の遠位部、ウイリス動脈輪近位部の両側性の狭窄と基底核の側副血行の顕著な発達で行う．b 脳動静脈奇形は動脈血が毛細血管を介さないで直接静脈に流入する先天性疾患である．画像検査では拡張した流入血管と導出静脈が観察される．c 多発性硬化症は中枢神経の慢性炎症性の脱髄疾患で，時間的・空間的に病変が多発する自己免疫性疾患である．MRI では T2 強調画像で高輝度となる非造影病変が時間的、空間的に多発する．d 複雑部分発作はてんかんの一つの発作系で，意識障害を伴う部分発作だが，必ずしも脳に器質的な病変があるわけではない．画像は http://www.nmh.or.jp/outpatient/specialty/moyamoya.html より拝借した．

正解　a